平成 27 年度 小児呼吸器研究班 第１回全体班会議　議事録

日　時：平成 27 年 6 月 7 日（日）14:00～15:50
場　所：八重洲ホール　9 階　901

出席者（27 名）：田口智章先生、早川昌弘先生、奥山宏臣先生、金森　豊先生、豊島勝昭先生、高橋重裕先生、甘利昭一郎先生、岡崎任晴先生、古川泰三先生、照井慶太先生、永田公二先生、漆原直人先生、矢本真也先生、黒田達夫先生、渕本康史先生、松岡健太郎先生、野澤久美子先生、田中水緒先生、前田貢作先生、守本倫子先生、二藤隆春先生、藤野明浩先生、岩中　督先生、上野　滋先生、野坂俊介先生、木下義晶先生、臼井規朗（順不同）

１）研究代表者からのご挨拶：

- 研究代表者の臼井より、『小児呼吸器形成異常・低形成疾患に関する実態調査ならびに診療ガイドライン作成に関する研究班』が、直接経費 640 万円/年で 2 年間の研究として承認されたことが報告された。

２）研究スケジュールについて：

- 疾患グループごとに進捗状況が異なり、今回の班研究が 2 年計画であることを鑑み、グループごとに最終的に 2 年目の年度末に疾患の診療ガイドライン完成させることを目指して活動していくことが提案され了承された。診療ガイドラインが期限前に完成する目途がついている疾患グループについては、さらに発展的な研究に着手することが提案された。
- 年度ごとに中間報告、進捗状況報告、研究報告書を作成する必要があるが、1 年目（今年）については、可能な範囲で研究代表者と疾患グループの責任者の間のやり取りで処理し、2 年目末までは主に疾患グループ単位で活動していただくことになった。
- そのため今年度第二回の全体班会議は、進捗状況報告前の 11 月末か、遅くとも 12 月初旬に責任者を含む少人数でコアメンバー会議を開催し、2 月末までに研究報告書を作成することになった。
- 来年の第一回全体班会議も同様にコアメンバー会議とし、来年度の第二回の全体班会議で研究分担者が全員集まって総括を行うことになった。

３）予算配分について：

- 前記の研究スケジュールに沿って、今年度第二回の全体班会議の規模を縮小するため、第二回の会議経費として想定していた 50 万円を 10 万円に圧縮し、各疾患グループの責任者に 10 万円ずつ追加配分して、グループごとの研究経費に使って頂くことになった。結果的に研究分担者一人あたりの分配を 12 万円均一とし、事務局に 160 万円（含報告書印刷送付・文献検索委託費、全体会議開催費）、疾患責任者に 30 万円を配分する予算の修正案が了承された。

４）文献検索の依頼について：

- 「先天性嚢胞性肺疾患」と「気道狭窄」については、これから CQ に対する systematic review のための文献検索が必要になるが、経費については事務局から一括して図書館協会に依頼（CQ が合計 100 個以内であれば、20 万円の予定）して手続きを行うことになった。

5）各疾患グループからの報告：

1. 先天性横隔膜ヘルニア

- 田口智章先生より、CDH 研究グループでこれまで行ってきた診療ガイドラインや研究の成果の概要が報告された。
- 照井慶太先生より、CDH 診療ガイドラインの進捗状況について説明があり、現在外部評価を終了しつつあり、最終化を経て Minds への提出と公開を予定していることが報告された。またガイドラインの有効期間を 5 年とする意義について意見交換が行われた。
- 永田公二先生より、CDH 研究グループは今後 2 年間で、RCT や統一プロトコールの作成、前向きコホート研究などを計画している旨が説明された。岩中督先生より、大規模な前向きデータベースがあれば、RCT でなくてもシングルアームでエビデンスレベルの高い前向き研究ができるという提案があった。

2. 先天性嚢胞性肺疾患

- 黒田達夫先生より、全国調査の解析結果の説明と、先天性嚢胞性肺疾患について分類試案と診断基準、重症度分類案を作成したことが報告された。また診療ガイドラインの作成のための SCOPE において、9 つの CQ についてシステマティックレビューを行う予定であることが報告された。
- 嚢胞性肺疾患を小児慢性特定疾患や難病の対象として挙げておくかどうかの議論があり、現時点では対象の候補として残しておくことになった。

3. 気道狭窄

- 前田貢作先生より、H26 年度の活動として、386 施設を対象として 825 例についての一次調査が行われたこと、825 例中二次調査として 650 例の登録が得られたこと、そのうち 533 例が解析の適格例であったことが報告された。
- 疾患別には、咽頭狭窄 66 例、喉頭狭窄 231 例、気管・気管支狭窄 83 例、気管・気管気管支軟化症 153 例についての現時点での二次調査の解析結果が報告され、さらに今後詳細な解析を追加する予定であることが説明された。
- 今後 2 年間の計画としてデータベースの解析に基づいてクリニカルクエスチョンを提案し、システマティックレビューを行っていく予定であることが報告された。

4. 頚部・胸部リンパ管腫・リンパ管腫症

- 疾患ガイドラインについては、現在 5 つのクリニカルクエスチョンについてシステマティックレビューが開始された段階であることが報告された。
- 症例調査研究については、気管切開の適応、ゴーハム病の実態、縦隔内リンパ管腫治療の必要性の 3 点について web サイトでの症例調査の準備が完了し、年内に調査を終了する予定であることが報告された。
- 難病指定については、診断基準に基づいて頚部・顔面に限定的ではあるが、7 月から指定されることが報告された。

6）次会の会議日程について：

- 次回会議はコアメンバー会議として 11 月末～12 月初旬に行うことになった。

以上　　（文責：臼井規朗）